

アカゲラ

Dendrocopos major

キツツキ科・留鳥



アカゲラ（オス）頭の赤は後頭部だけ

名前の由来

後頭部と下腹部が赤いことからついた名。「ケラ」はキツツキの古名「けらつつき」の略で、けら（虫）をつついて捕るのでついたといわれる。漢字名：赤啄木鳥

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水迎) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）23.5cm。背から尾まで黒く、肩羽の先が白いのでV字形の大きな白斑として見える。下腹部は赤い。

オスは頭頂が黒く、後頭部が赤い。メスは頭部全体が黒。声：「キョッキョッ」あるいは「ケッ、ケッ」と1声ずつ区切って鳴く。飛んでいるときには「ケレケレケレ」あるいは「ケケケケケ」と鋭くなくこともある。また警戒するときには「ケッケッケッ」とせわしく鳴き続ける。育雛時には巣穴からヒナの「キョキョキョ」というやかましい鳴き声が聞こえる。

空洞になった木の幹を太鼓のようにくちばしで叩いて「タララララララ」と大きな音を出す。これをドラミングという。

飛び方やとまり方：飛ぶときには、羽ばたきと翼を閉じての滑空とを繰り返し、波のような飛行曲線を描く。

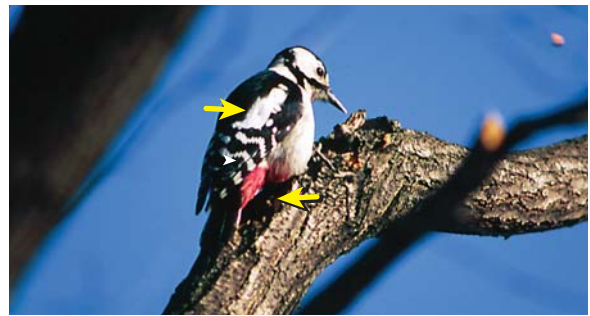
木の幹に垂直にとまる。オス同士対立するときは水平な枝の上で向かい合いもする。

類似種と見分け方：オオアカゲラ、コアカゲラ。

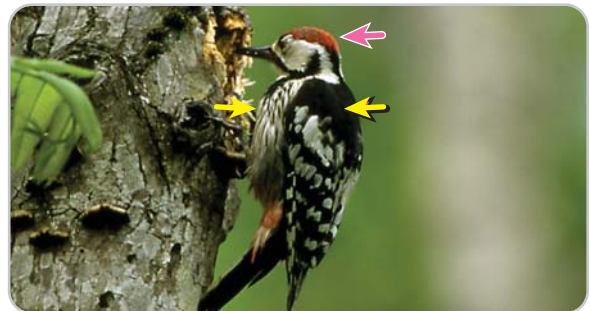
オオアカゲラは一回り大きく、脇には黒い縦斑がある。V字形の大きな白斑はない。

コアカゲラはずっと小さく下腹は赤くない。背にV字形の

白斑はないが白い横斑が重なって背中が白く見えることが多い。



アカゲラ。下腹部の赤とともに肩から背中への白斑が特徴



オオアカゲラのオス。脇に何本も短いスジがあり、背には大きな白い模様がない。またオスの頭の赤いところが大きい

生息環境・分布

低山から亜高山までの比較的明るい林を好む。河畔林や農耕地の雑木林、樹木の多い集落や公園でも繁殖する。

分布：ユーラシア大陸中緯度地方の森林に分布する。

日本では、北海道から本州まで分布するが、西南日本では少ない。

北海道では留鳥で通年で生息し、低山の林や樹木の多い公

園などで繁殖する。北海道のものはエゾアカゲラという亜種。（亜種とは、同じ種が地理的に隔離されることによって独自の分化をとげ、形態的に変化が確認できるもの）十勝では留鳥で、平地から低山の林に普通。樹木の多い住宅地や公園でも繁殖する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期												
						繁殖						

食性・他生物との関わり

甲虫の幼虫を食べ、ほかにアリ類や鱗翅類（チョウやガ）の幼虫も食べる。

樹木の幹から大枝にかけてよじ登り、樹皮の表面や割れ目、生木の枯れ枝、枯れ木の材、地上に落ちている枯れ枝などくちばしでたたいてほじくり、枯死部の中にある幼虫を取り出す。

舌は著しく長くくちばしより長く伸ばして先を器用に動かし虫をなめとる。（→興味深い話の項参照）

秋から冬にはヌルデやウルシの実、ノイバラやヤマブドウなどの果実も食べる。

捕食者は猛禽類など。

繁殖生態

繁殖期は5～7月頃で、一夫一妻で繁殖する。

冬のうちからつがい作りが始まり、そのためのディスプレイ（誇示のための行動・動作）を盛んに行う。（→興味深い話の項参照）

枯れ木や枯れた大枝にオスメス共同で樹洞を掘って巣にする。オスの方が作業量が多いという。巣は地上2～5mく

らいに作られることが多く、穴の入り口の直径は4～6cmくらい、深さは20～40cmくらい。特に内装は作らず直に卵を産むという。

4～6個産卵し、オスメス交代で卵を抱く。14～16日でヒナがかえる。ヒナは両親に養われ、20～21日で巣立つ。

興味深い話

■標識調査で、6年8ヶ月の生存が確認されている。

■春には、空洞の木をくちばしで叩いて大きな音を出すドラミングを盛んに行う（アリスイ以外のキツツキの仲間すべてが行う）。アカゲラの場合、1秒間に18～22回くらいたたくのだという。

■なわばりは直径200mほどだという。

■つがい形成のディスプレイ（誇示のための行動・動作）では、幹や大枝をはさんで向き合うようにとまって首を左右に振ったり、追いかけたりする。（→繁殖生態の項参照）

■つがい形成やオス同士の対立時のディスプレイでは、下腹部の赤い羽毛を逆立てふくらませる。

■オスとメスが巣作りや子育てを交代するときにもドラミングを行うという。オスもメスもドラミングをするがオスの方が少し長いという。

■オスメス両方が抱卵・育雛を行うが、卵が産まれるとおすは夜間巣穴内をめぐらし、ヒナが巣立つ2日程前まで続けるという。

■冬には餌台に来て脂身を食べる。

■十勝では町中の街路樹や、防風林などでも営巣していることがある。

■北海道の離島には利尻島だけに生息するという。

■足の指は4本だが大きく、指だこや爪が発達している。足指のうち第1足指と第4足指が後ろ向きになっていて、4本の足指が十文字になって体を支える。さらにこの第4足指は前後に回転でき、垂直の幹にとまると外側を向くようになる。

■キツツキの舌は非常に長く、普段は頭の骨に巻き付くように収納されている。これを伸ばして虫をなめとる際、舌下腺から粘りの強い粘液（いわば唾液）を分泌し、虫を捕りやすくしている。（→食性・他生物との関わりの項参照）

■キツツキのくちばしは大きくて長く、良くとがり、非常に骨質化していて頑丈である。その上頭骨との付け根は蝶つがいのようになっていて、くちばしでたたくときのショックを頭に伝えないようにできているという。

■十勝地方のアイヌ語で「エソクソキ」という。「頭をトントン打ち付ける」の意味。

配慮事項

巣を作ることができる直径30cm以上の樹木や枯死木がある、成熟した樹林が大切。

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

（在来種）
草花

（外来種）
草花

哺乳類

（水辺）
鳥類

（草原・樹林）
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997

「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「野鳥の生活」羽田健三 監修、築地書館 1975
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. I」清棲幸保、講談社 1978
「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

Short, L. L. (1982) Woodpeckers of the World. Delaware Museum of Natural History, Delaware.